

その実態は?

65歳以上の方がいる世帯類型のうち

	2011年	2015年	2025年
ひとり暮らし	全 国 30.7%	31.8%	34.8%
夫婦のみ	世田谷区 39.5%	40.9%	42.6%
	全 国 33.3%	32.9%	32.0%
	世田谷区 30.2%	29.1%	29.2%

2000年に介護保険制度がスタートした当時は、3世代同居が5割以上あり、高齢者のかたわらには元気な家族がいました。

しかし、近年は高齢世帯は核家族化が急速に進んでいます。

介護の実態調査が必要です。

世田谷区でも、介護を必要とする認知症の方が約1万8千人（平成24年4月現在）に上り、平成20年以降、毎年1000人ずつ増加しています。

介護事業者や医療機関との連携も含め、どのような仕組みを地域社会に築かなければならぬのか、その実情を「実態調査アンケート」によって知りたいと考えています。



▲福祉施設の送迎車両の空いた時間帯を利用して、買い物に出かける住民（世田谷区）

世田谷区独自の医療・介護システムの構築を目指します！

住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会を築くためには、地域特性に合わせた「医療・介護システム」を築かなければなりません。

各地域ごとに高齢化の進行度や認知症高齢者の実態も異なるため、国が全国一律の仕組みをつくることは不可能です。

各自治体が地域の総点検を行い、実態に合わせた戦略的な社会づくりを進めため、公明党世田谷区議団は、「大介護時代へどう立ち向かうのか」を大命題として、真正面から取り組みます。